

TOKUSHIMA PREFECTURAL INTERNATIONAL EXCHANGE ASSOCIATION



2023.09

発行／公益財団法人徳島県国際交流協会

2023年度

外国人による徳島県日本語弁論大会



7月23日（日）、あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）にて第34回目の「2023年度外国人による徳島県日本語弁論大会」を、徳島県及び（公財）徳島県国際交流協会の主催により開催しました。

20数名の応募者の中から、書類審査を突破された7か国14名の方が、異文化理解や、自国と日本の違い、日本での生活で感じた事など、それぞれの思いを熱く発表してくれました。

コロナ収束もあり、今回から来場者の人数制限を撤廃し、発表者、審査員、来場者等合わせ140名程度にご参加いただき、大会後は4年ぶりに開催した交流会で発表者と来場者とで楽しいひと時をすごされました。

今大会、最優秀賞に輝いたのは、外国語指導助手で米国出身の台湾にもルーツを持つジェニファー セツさん、徳島県議会国際交流議員連盟会長賞に輝いたのは、技能実習生でインドネシア出身のアリス セプティアワンさんです。

本大会の報告は、すでに当協会のホームページで掲載しておりますと同時に、後日、動画配信をいたしますので、ぜひご覧ください。

文化を決めるのは、自分です

ジェニファー セツ（米国）

まず最初に、簡単に自己紹介をさせていただきます。私は台湾系アメリカ人で、徳島市立高校で英語の教師として勤めているジェニファーと申します。今、来日二年目です。

「文化」という言葉を聞くと、何をイメージしますか？恐らく、一番先に頭に浮かぶのは国や地域によって考えと習慣が違う事ですね。しかし、それだけでなく、私は、文化に対する「自分の態度と見方」についても言及したいと思います。

祖父の事を例に挙げたいと思います。

私の祖父は1928年に台湾で生まれました。当時、台湾は日本の植民地だったので、祖父は日本の教育を受けていました。第二次世界大戦中、祖父は高校入学前でしたが、学校へは行けなくなり、海軍に徴用されました。そして、台湾から日本の神奈川県高座郡にある航空母艦の飛行機工場で戦闘機を造る仕事をしました。

戦後、祖父は台湾へ帰国し、高校と大学の教育を受けた後、植民地時代に受けた日本の教育と戦争中海軍工場で働いていたことから、そのネーティブ並みの日本語力と日本人とやり取りした経験を活かして、日本の会社と貿易するビジネスを始め、立派な起業家になりました。

戦争や植民地時代において、生活や人生が大幅に変わった人は数えられないほどいました。そのうちに、全員が自分の出会いを人生の宝に変えられたわけではありません。祖父は少年の時、普通の高校生のように、学校へ行ったり、家族と生活したりする事が出来ませんでした。周りの環境を受け入れて、母国の言語と文化を持つと同時に、日本語と日本人の考え方も身に付けました。結局、祖父はその境遇を自分の宝にして、自分なりのアイデンティティを作っていました。

異文化を受け入れられるかどうか、その決め手は「態度」です。何があっても、誰に会っても、もし広い心で観察して、考えて、理解してみたら、自分の世界が広がり、考えも変わるかもしれません。グローバル化が急速に進んでいる今は、たとえ海外に行かなくても、私たちの生活は必ず国際化の事実に影響されているはずです。あなたの今の生活はどんな変化をしていますか？その変化を自分はどういう風に受け入



れられていますか？

周りの物事に、どのような気持ちで臨むか、自分の価値観と考え方次第です。そして、その考えが行動につながります。ひとりひとりの行動は一見、個人的なものに見えますが、全体的に見れば、文化そのものとなります。つまり、文化は、自分が決められることなんです。

祖父は八年前、他界しましたが、彼が私に与えた影響は一生消えることがありません。例えば、去年私が来日したばかりの時、携帯や銀行の手続きで、自分の国と全然違うやり方を見て、戸惑いましたが、「郷にいつては郷に従え」。今日本にいるから、日本のやり方を尊重し、そのメリットを客観的に理解してみた結果、逆に私の考え方も少し変わりました。先代がよい態度と広い心で自分の文化を作ったからこそ、それを見ていた私はさらにその態度を受け継いで、今、ここ日本で自分なりの文化を作ることができます。これは、文化の好循環だと思いませんか？

地元の文化だろうと、外来の文化だろうと、結局どんな文化を身に付けたいのを決めるのは自分です。その上で、皆が互いに理解したり、尊重したりする事が出来たら、それこそが真の多文化社会と言えるのではないかと思います。こうして、文化の好循環が次の世代へ続いて行くでしょう。

ご清聴ありがとうございました。（原文ママ）

当協会YouTubeチャンネルで配信いたします。

徳島県国際交流協会 YouTube



この夏にドイツからの国際交流員のニコさんが任期を終えられました。在任中は徳島県とドイツ・ニーダーザクセン州との交流推進や国際交流の推進などに努められました。これからの益々のご活躍を期待しております！また、2人の新国際交流員の方が着任いたしました。

Auf Wiedersehen!

前徳島県国際交流員
 ニコ ボーンザック

2018年のうだるような夏に徳島に来たときは、まさか5年間も滞在するとは思っていませんでしたが、あっという間に2023年のうだるような夏を迎え、徳島県の国際交流員としての生活も終わりました。いよいよ旅立ちの時です。この5年間の素晴らしい経験を一言で表現するのは難しいですが、この5年間を振り返ってみたいと思います。

私は、徳島県と私の故郷であるドイツ・ニーダーザクセン州との交流事業をコーディネート、そして関係を深めるためにJETプログラムを通して、徳島県に配属されました。配属期間中にパンデミックが発生したにもかかわらず、私は多くの機会に恵まれました。私が徳島に配属された時にはスポーツ、環境、教育、職業訓練などの分野では、すでに多くのプロジェクトが実施されていましたが、女性のエンパワーメント、メディア依存症、看護、そして徳島ヴォルティスとハノーファー96のサッカーチーム間での新規プロジェクトなど、重要な分野で新しいプロジェクトを実施することができました。

ドイツ・ニーダーザクセン州との友好交流提携15周年を記念し、阿波人形浄瑠璃と阿波おどり関係者等からなる大規模な訪問団とのドイツ訪問も私の記憶の中では非常に特別です。そして、私はさまざまな代表団とともに10回以上ドイツを訪れ、ここ徳島ではおそらくそれ以上の数のドイツからの代表団を歓迎しました。そのすべての年月の間に、双方でどれだけの偉大で献身的な人々に会ったか、いくら強調してもしきれません。

TOPIAでの仕事では、「阿波ライフ」などを通じて徳島に住む他の外国人に情報発信をしたり、学校等でドイツに関連する内容の講演をすることで、多くの方にドイツについて知っていただく機会がありました。実際、故郷のドイツに次いで、徳島は私が最も長く住んでいる場所のひとつであり、それゆえ私は徳島に強い絆を感じています。阿波おどりに参加したことは、私にとって素晴らしい経験のひとつでした。暑さに弱く、踊りも下手な私は、最初は半信半疑



でしたが、短パンにハッピー姿で飛び込んだ瞬間から、すべてが変わり、その場の空気が自分の一部になっていくことが分かりました。最近、街を歩いていて、夕方に練習しているグループの声を聞くと、ちょっと切ない気持ちになります。

自然は徳島の魅力の一つです。海の安らぎを味わうために何度も南部へドライブしたことが（南阿波サンラインやえびす洞は要チェック）、そしてこれまで数え切れないほど訪れた中で最も美しい場所のひとつである祖谷渓谷にも何度も足を運びました（黒沢湿原は本当に隠れた名所です）。

ドイツの田舎で育ち、大学入学後は大都会で暮らし続けてきた私にとって、徳島は自分のルーツと再びつながるきっかけとなりました。特に、県庁やTOPIAの素敵な上司や同僚、JET参加者の仲間たち、そして友人たちに感謝の気持ちを伝えたいです。皆さんがいなければ、この数年間はこんなに素晴らしい旅ではなかったでしょう。また、「阿波ライフ」編集部の一員として、寄稿者と読者の皆様のご協力に感謝申し上げます。

徳島が恋しくなる気持ちはすでに感じています。これからの職務の中で、徳島との仕事上のつながりを維持できる可能性はあるし、個人的なつながりがあることは確かなので、また戻る機会が必ずあると思います。アウフ・ヴィーダーゼン！（また会いましょう！）

着任挨拶

TOPIA ニューフェイス



徳島県国際交流員
羅 新昕

はじめまして、中国湖南省衡陽市から参りました羅新昕（ラシンシン）と申します。2017年に名古屋大学を卒業して、帰国しました。中国では高等専門学校の教師をしています。日本への留学経験があり、湖南省衡陽市と滋賀県栗東市との姉妹都市友好交流においては、政府代表団の派遣・受け入れ、青少年教育代表団の派遣・受け入れ、湖南省と滋賀県の友好提携35周年記念事業に参加しました。今年5月から、私は国際交流員として徳島県ダイバーシティ推進課と徳島県国際交流協会で勤務させていただいており、とてもうれしく思っております。初めて徳島県で勤務するという事で、至らぬ点もあると思いますが、ぜひとも皆様からご指導を賜りますようお願い申し上げます。



私の出身地である湖南省は徳島県と同じように、自然に恵まれ、景色が美しいところです。2011年10月に湖南省と徳島県は友好都市を締結して以来、人文、体育、医療、林業などの分野で幅広く交流事業を行っています。これから、私は両省県の友好交流事業でこれまでの成果を元に、両省県の友好交流を一層推進してまいります。初めて徳島県に来て、どこへ行っても優しさ、熱意・助けを感じ、家に帰ったように感じました。この場をお借りして、改めて皆様に感謝申し上げます。

徳島県で勤務する10カ月間で、日本の文化を深く理解して、自分自身の能力を向上できるよう努力し、湖南省と徳島県の友好交流と協力の促進に貢献したいと思います。



徳島県国際交流員
ラスムス ブルクマー

はじめまして。ラスムス ブルクマーと申します。ドイツのベルリン出身です。2023年8月から国際交流員として徳島県庁のダイバーシティ推進課と徳島県国際交流協会で働くことになりました。私の仕事は徳島県にいる外国人のサポート及びドイツと日本の交流を推進することです。私はベルリンのフンボルト大学で地域研究を専攻し、日本語を勉強しました。そして、2019年には東海大学に1年間留学をしました。この留学のおかげで初めて国際交流の経験ができ、将来的にも国際交流の分野で働きたいと思うようになりました。

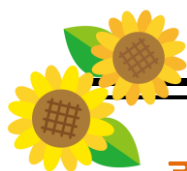


徳島県はドイツのニーダーザクセン州と深い友好関係があり、色々な興味深い交流事業が行われています。例えば、徳島ヴォルティスはドイツのハノーファー96というサッカーチームと交流を行っており、将来的に両チームのユース選手同士の交流につながると期待しています。そのような素晴らしい交流に協力出来るのがとても楽しみです。

私の趣味は、旅行や、音楽、ハイキング、色々なスポーツをすることです。また、サクソフォーンとピアノも弾いています。好きな食べ物はベルリンでとても人気のゲミューゼケバブです。パンに鶏肉とスペシャルソースがかかった野菜サラダを混ぜたものを挟みます。非常に美味しいです。

徳島での生活は、地元での生活ととても違い、まだ慣れていないことがたくさんあります。しかし、徳島に来て出会った人はとても親切に私をサポートしてくれるので、すぐ私は徳島での生活に慣れると思います。

それでは、これから徳島県に貢献できるよう頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



夏休み子ども日本語教室（サマースクール）



7月21日から8月2日までの8日間、県事業としてJTMとくしま日本語ネットワークに委託し、恒例の夏休み子ども日本語教室を県国際交流協会で開催しました。

今年は、モンゴル、中国、フィリピン、フィジー、ペルー、韓国、アメリカ、マレーシア、日本（計9か国）にルーツを持つ小学生16名、中高生11名、計27名を、総勢24名の支援者が対応しました。特に今年は、コロナ収束に伴い入国して間もない入門・超初級レベルの子ども達が多かったのが特徴的でした。

教室では、1時間の個別学習のあと、担当講師による30分の全体学習（まちがいさがしやオノマトペなど）、さらに毎日3～4人が1分間スピーチをしてそれぞれの夢や思いを発表しました。

また7月29日には、当協会主導の「進学ガイダンス」を開催。第1部では、保護者を対象に「日本の学校のシステムや入試の現状」について、また第2部では子どもを対象にイラストをふんだんに使って学校のことについて、分かりやすく説明をしました。

この8日間が、子ども達にとって、これからの日常生活や学校生活を前向きな姿勢で過ごしていくための起爆剤になるよう願っています。最後に今年も熱心に、そしてあたたかい心で御協力頂きましたJTMの皆様、ありがとうございました。



あらかまち

2023年8月14日（月）阿波おどり交流事業「あらかまち」を実施いたしました。本年は結成から43年目となり、20か国からの外国人39人とともに、有名連「のんき連」の協力の下、約130人の連で演舞場に繰り出しました。参加者は1か月前から練習にはげみ、本番を楽しみにされていました。当日は、台風の影響による雨の中ではありますが、笑顔で踊られる参加者の皆さんを見ることができました。皆さんからは、「みんなで踊ると心が一つになる気がして、大変楽しかった。」「世界が平和になることを願っている。」等のお声をいただきました。

雨にも関わらず、御協力をいただきました皆様、参加者の皆様、大変ありがとうございました。



令和5年度 後期日本語教室

TOPIAでは、徳島県内にお住まいの外国人の方を対象に日本語教室を開催しています。

開始日：9月19日（火）～ ※レベルにより曜日が異なりますので、詳細は当協会のホームページにてご確認ください。

時 間：10:30～12:00 場 所：TOPIA会議室 受講料：無料



カンボジア短期日本語パートナーズ派遣を終えて

(公財) 徳島県国際交流協会
 多言語相談員 小林 真子

6月13日～6月22日まで独立行政法人国際交流基金日本語パートナーズ事業でTOPIAから3名を含む計5名がカンボジアに派遣されました。

この派遣事業では、毎年多くの日本人が日本語教育の現地教師や日本語学習者のパートナーとして派遣されて、現地の日本語学習者に日本語で、日本文化を伝えたり、日本語学習のサポートを行います。そして人と人の生の交流活動を通じて、さらに日本や日本語のファンを増やすことと、現地での体験を日本に発信することを目的としています。

また、この事業は短期と長期のプログラムに分かれており、私たちは、カンボジア短期4期チームとして派遣されました。それは、カンボジアが、以前から徳島県と交流があり、徳島県が東京オリンピックのカンボジア選手受け入れのホストタウンだったことに起因します。

今回の派遣では、日本語学科やコースがあるブノンペン大学や王立経済大学、1970年代の内戦で荒廃したカンボジアで教育の必要性を説き、多くの日本人や会社の支援で設立されたプレイベン友好学園、そして1993年、カンボジア総選挙時の国連ボランティア活動中に銃殺され亡くなった中田厚仁さんのご両親が設立したアツ村のアツ小学校を訪れました。これらの派遣先で行った活動は、事前研修でメンバーで計画をし、準備を進めてきました。話し合いの中、日本文化だけではなく、「徳島らしさ」を盛り込むことにしました。主な活動内容としては、徳島の魅力を分野別に伝えるおしゃべり屋台、徳島の阿波おどり、また阿波おどりの時に使ううちわ作り、徳島名産の半田そうめんを使った流しそうめん等です。さらに日本の歌を一緒に歌ったり、カンボジアの手遊びを一緒にやったりと色々な形で現地の学生や子どもたちと交流しました。



半田そうめんを使った流しそうめん



国際交流基金ブノンペン事務所にて

その他の活動では、特定技能で訪日経験のある方を囲んでの座談会や現地の方のお宅訪問、世界遺産サンボークレイクック遺跡探索、技能実習生の送り出し機関訪問、そして首都のブノンペンにある日本大使館への表敬訪問がありました。

この派遣を通して、教育機関の授業見学やカンボジアの日本語教育の現状、日本語学習者の動向などを現地の日本語教育関係者の方々から伺うことができました。個人的には、現地の学習者たちの素直で、無邪気な表情が非常に印象的でした。そして、うちわ作りの際に、習いたての日本語をうちわに書き、装飾していく姿をみて、日本に興味を持ってもらい、将来ぜひ日本で日本語を勉強してほしいと感じました。

日本には、カンボジアを含む諸外国から様々な目的を持って来日しています。コロナが収束し、観光目的で日本に来る訪日外国人も以前のように急増しておりますし、定住者をはじめ、留学や就労目的などで中長期的に在住する外国人は、現在過去最高の300万人を越えました。地域の外国人住民と日本人住民が互いを認め合いながら生活できる「多文化共生社会」の実現が急務となっている現在、TOPIAとして、彼らが互いに住みやすい環境作りのお手伝いをし、このような住民同士がつながる機会を引き続き設けていきたいと、今回の日本語パートナーズの活動を通してあらためて思いました。



JICA徳島デスクのページ

JICA（独立行政法人 国際協力機構）は、日本のODA（政府開発援助）の実施機関として、開発途上国への国際協力を行っています。「信頼で 世界をつなぐ(Leading the world with trust)」というビジョンを掲げ、多様な援助手法を組み合わせ、最適な解決策を提供することで、開発途上国が抱える課題解決を支援していきます。

徳島県青年海外協力協会主催のサマーキャンプに参加しました。

〇8月4日～8月8日に徳島県上勝町で高校生のサマーキャンプが行われました。

徳島県青年海外協力協会は、東日本大震災や熊本地震で被害のあった福島県、熊本県の子供たちに対して沢山の経験ができるように2012年にサマーキャンプを始めました。福島県10名、熊本県10名、地元徳島県3名、計23名の高校生が参加しました。JICA研修員も参加し、衣食住をともにし国際交流を図りました。

研修員は1泊2日で3名参加し、初日は、高校生と一緒に阿波おどり会館で徳島県の文化に触れ、実際阿波おどりを皆で踊りました。研修員も楽しそうに踊ってくれました。夕方から宿舎に移動し、各自自己紹介を行いました。日本語での自己紹介は難しそうでしたが、一生懸命お話してくれました。2日目は、高校生に向けて、自分の国のことや自分が今勉強していることなどを発表してくれました。研修員の1人は、前日の夜から練習し、日本語で発表してくれました。ブラジル人研修員は、ブラジルの伝統お菓子を手作りして高校生に食べてもらいたいと他の2人の研修員にも手伝ってもらって40人分のお菓子作りに励みました。高校生から大人気で気が付けばすぐなくなっていました。午後からは、ヤッホー体験とほら吹き体験をしに山奥へ。先生からコツを教えて頂きながら大喜びで高校生も研修員も練習に励んでいました。夜は、手作りのピザを皆で食べました。1泊2日の参加で短い期間ではありましたが、高校生にとっても研修員にとってもお互いのことを知れるとても貴重な機会であったと思います。研修員に話を聞くと、「日本の文化を体験できるいい機会だった。また、参加できるのであれば参加したい」との感想を頂きました。高校生も何か感じるものがあったら何よりです。



〇2023年秋募集（長期）が始まります

2023年11月1日（水）～2023年12月11日（月）

日本時間 正午締め切り

ウェブサイトでの募集情報公開 2023年10月10日（火）

〇県内募集説明会

徳島イオンモール 11月26日（日）開催予定

いつか世界を変える力になる。

【お問い合わせ・資料請求】

JICA海外協力隊募集事務局

TEL：045-410-8922

JICA海外協力隊

<https://www.jica.go.jp/volunteer/index.html>



〇JICA海外協力隊経験者による出前講座

出前講座とは、協力隊経験者や技術協力専門家などを学校や地域に紹介し、講演やワークショップを行い、開発途上国や国際協力について知っていただくプログラムです。国際化時代を迎え、学校の授業の一環として海外の生の状況を知ることは国際理解を深めるうえで非常に有効です。児童・生徒たちの視野が広がるきっかけにもなると思いますので是非ご活用ください。

過去の出前講座や応募方法についての詳細は、JICA四国HPをご覧ください。

【お問い合わせ先】

JICA四国 開発教育支援事業担当 山科

電話番号：087-821-8824 メール：Yamashina.Emi2@jica.go.jp

JICA四国 出前講座

<https://www.jica.go.jp/shikoku/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/index.html>



JICA徳島デスクでは、いつでも皆さまからのお問い合わせをお待ちしております。

デスク：徳島県国際交流協会（TOPIA）内／徳島県国際協力推進員 服部

TEL：088-656-3303 Email：jicadpd-desk-tokushimaken@jica.go.jp

JICA四国HP：<https://www.jica.go.jp/shikoku/index.html>

「とくしま外国人支援ボランティア会員」

＊募 集 中＊

徳島には約90か国、約7,000人の外国人の方が住んでおり、2019年4月からの「外国人材の受け入れ拡大」などにより、今後ますますその数は増えていくことが予想されます。彼らが、この徳島で国籍などに関係なく生き生きと生活することができるよう、ボランティアになって支援していただきながら一緒に国際理解や多文化共生を推進していきませんか？

詳しくはとくしま国際戦略センターホームページの「ボランティア募集」をご覧ください。

URL <https://volunteer.topia.ne.jp/recruit/page01.html>

TOPIA 賛助会員募集中

当協会では、当協会の趣旨と活動内容にご賛同いただける賛助会員を募集しています。賛助会員は協会の情報を優先して受けることができ、賛助団体は会議室の予約を3か月前から申し込むことができます。詳細は当協会まで。資料をお送り致します。

年会費	個人会員	一口	3,000円/年度
	団体会員	一口	10,000円/年度

国際理解教育を応援します

国際理解支援講師派遣

人とふれあい 人とつながり

多文化理解&多文化共生！

徳島県の国際化の進展に伴い、多文化共生に向けた県民の意識醸成や国際理解教育の推進を目的として当協会では学校や市町村の機関が行う国際交流活動などに講師（県内在住外国人等）を派遣します。リモート講義についても御相談ください。

国際理解支援講師募集中

～母国と日本の交流の架け橋となりませんか～

県内の学校や市町村の機関が行う国際交流のイベント等で、国際理解支援講師として日本語で母国の文化紹介などをしてくださる県内在住外国人の方を募集しています。

徳島県外国人総合相談窓口



徳島県で生活する外国人のみなさんが、暮らしやすい地域社会を目指し、外国人総合相談窓口を開設しています。当協会では英語、中国語、そしてベトナム語のほか、たくさんの言語で対応ができますので、仕事、医療、子育てなど生活でお困りのことがございましたら、当協会に来所いただくか、お電話いただければ対応させていただきます。

開 所 時 間：10：00～18：00（年末年始を除く）

場 所：とくしま国際戦略センター

（公益財団法人徳島県国際交流協会）

多言語対応：

（1）多言語（英語・中国語・ベトナム語）相談員の配置

（2）電話通訳システムの導入

（通訳事業者、行政機関も交えて4者間で相談できる）

【対応言語】21言語

- ①英語 ②中国語 ③韓国語 ④ベトナム語
- ⑤インドネシア語 ⑥タイ語 ⑦マレー語
- ⑧タガログ語 ⑨ネパール語 ⑩ミャンマー語
- ⑪クメール語 ⑫モンゴル語 ⑬ポルトガル語
- ⑭スペイン語 ⑮フランス語 ⑯ドイツ語
- ⑰イタリア語 ⑱ロシア語 ⑲シンハラ語
- ⑳ベンガル語 ㉑ヒンディー語

（3）映像通訳システムの導入

（相談者・相談員と通訳者との対面相談に対応）

【対応言語】8言語

- ①英語 ②中国語 ③韓国語 ④ベトナム語
- ⑤タイ語 ⑥ポルトガル語 ⑦スペイン語
- ⑧ロシア語

（4）対面式通訳機（ポケットーク）の導入（74か国語）

（5）多言語翻訳アプリ（ボイストラ）の導入

相談専用TEL：088-656-3312、088-656-3313

相 談 料：無料（ただし、電話代は自己負担となります）

問い合わせ：公益財団法人徳島県国際交流協会
〒770-0831

徳島市寺島本町西1-61 クレメントプラザ6F

開所時間：月曜日～日曜日 10：00～18：00

閉所日：年末年始

TEL: 088-656-3303 FAX: 088-652-0616

URL: <http://www.topia.ne.jp>